

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001925		
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会		
事業所名	グループホームいきいき服部西		
所在地	豊中市服部西町3丁目9番4号		
自己評価作成日	平成24年3月12日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の周辺は緑や公園が多く、四季ごとに町並みが変わり常に季節を感じる環境にしています。また事業所は保育園・小学校・高校等の世代が集まる地区でもあり子ども達とも交流を持つ機会もあり、市の体育館や市民のための施設があり催しがある時は気軽に参加ができます。今年は大阪府の施設整備モデル事業として10年目を迎える年となり、より一層地域との交流ができることを期待しご本人・ご家族・地域の方々・市役所の方々のお力をお借りし、職員が一丸となりより良いケアが出来るように努力していきたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの近くにはスーパー等お店が多く、生活の原点である食材他への買い物には大変便利で、かつ多目的ホールや体育館も近く、色々なイベントを見学し、そこで顔なじみになった人もいて立地条件は良い。利用者も年々ADLが低下し、車イス対応の方も増え、全員の外出(散歩)は難しくなっているが、ホーム内では車イスを使わずに歩行困難者には職員がつきっきりで利用者の両手をとり歩行の支援をしている。昼食時にもそれを行い、車イスでなく必ず食卓のイスに座ってもらって食事介助を行っている。食事内容も利用者目線でホーム厨房で作られ利用者には大変好評である。当服部西地区は高齢化率も高く自治会や町会は解散しており、地域とのおつきあいには少し苦労されているが、老人会の行事(敬老祝賀会他)には参加し、地元中学生の職場体験を受け入れる等工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はホームの入退室時事業所理念を一観出来る。その方らしい生活の支援が提供できるように統一し随時変更も可能とし理念の共有に努めている。	当ホームの経営理念の中に、「・・・、服部の地域で、利用者のいきいきと安心できる生活を提供します。」の文言を入れ、玄関横に掲示し、利用者家族や地域住民にも理解を求め、職員一同その実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社協の手芸クラブの参加にて地域のお年寄りとも話す機会ができています。市の体育館での催し物へも参加し顔なじみとなってきている。	すでに地域自治会や町会は解散しているが、老人会の各種行事(夏祭り、敬老祝賀会等)の案内を見て、参加している。近隣の中学生の職場体験も受け入れたり、在宅の認知症ケアの相談にももの等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区内の中学生に職業体験学習の受け入れを行い認知症という理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、地域住民、市職員、事業所職員の参加にて報告事項やテーマを提案し各発表をして頂いたり貴重は意見を頂いたり今後に活かしている。	運営推進会議については、必要なメンバーを揃え、昨年度(2011年度)は4回開かれています。双方向の意見交換会となっている。	昨年度も目標達成計画に取り上げ、2ヶ月に1回の開催を目標にされたが、実現には至らなかったようである。地域と交流できる大切な会議なので、民生委員とも相談し再度挑戦されたら如何かと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の方が利用されており市担当者より定期的な訪問があり事業所より報告等積極的に行っている。	生活保護受給者が数名利用されており、市の生活福祉課とはよく提携し、お互いに訪問し合って情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員内部研修にて身体拘束となる対象行為を再度確認し、職員間同士理解するよう努めている。	法人として、職員の入職時研修には必ず「身体拘束禁止」「虐待禁止」「プライバシー保護」等の研修を徹底し、現在身体拘束をしないケアが実現できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で高齢者虐待防止法を学び、慣れてきた頃再度内部研修にて学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度利用者が入居されており月1回司法書士の訪問があり状況報告を行っている。また職員に於いては新人研修に勉強の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の手続きに於いて十分な説明を行っている。また不明点があれば電話等随時説明を速やかに行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月初めにご家族様等にホームよりおたよりを発行封書投函している。意見等あれば反映させていきたい。	利用者からは、寄り添ってリラックスした時、例えば入浴介助で職員と1対1になったとき等に意向や要望を聞いている。家族からは、来訪された時に直接お聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に何度も会議を実施し職員の意見等反映し共に考えより良いケアを目指している。	職員ミーティングをよく行うので、何でも気の付いた点等を聞いている。法人理事長の個別面接も年1回あるので、その際に言ってもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長より職員一人ひとり会話する機会を設けてもらい意見等の聞き取りをしてくれる。また職員給付金の申請を実施し職員へ配分給付をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員内部研修や外部研修にて勉強する機会を設けられ職員は国家試験を受験できるように事業所側よりも協力体制を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの職員の方と交流する機会があり意見交換を行っている。地域ネットワーク作りの構築については自治会が解散した為問題もあるがその他の活動を通じ構築していく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面接時にご本人の目線に立ちゆっくり時間を掛け傾聴し信頼関係を努めている。またご本人のこだわりや要望等汲み取り安心感を得て頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様同様ご家族様に対してもこだわりや要望があれば傾聴しそれに近づける努力を行い信頼関係に繋がるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「今何が必要で重要か」を共に考え支援の確認に努め入居するまでは他の関係機関と連絡を密し連携しご本人のプライバシーにも配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ること見つけ出しホームでの役割りを持ってもらう。その方に合った支援方法へ結びつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の出来ることをご家族へ伝えご本人へ励ましの言葉やご家族との会話にも繋がっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の状況変化があっても今まで同様の人間関係は出来ている。面会を通じボランティアに来て下さったりホームとの関係も築けている。	今までの生活維持を支援するため、馴染みの場所(お店、美容院、喫茶店等)へお連れしたり、馴染みの友人や知人の来訪も家族の許可を得て、歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションやレクリエーションを行う中で一人ひとりの役割りができ譲り合う場面も見れるようになってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入所された方のご家族が時々道端で会うと会話する機会があり傾聴し助言等が出来る機会があった。また入院された方の病院へ面会へ伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居面接時に今までの生活スタイルを伺いホームで今後どのような暮らし方を希望するか伺っている。	最初必ず利用(予定)者の自宅を訪問し、今までの生活環境を確認し、これからの暮らし方の希望を聞き出している。デイサービス等を利用されていた方は、情報を引き継いでいる。それらを面接記録に纏め、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接時ご本人もしくわご家族、立会いの方へ生活スタイルの確認をしホームでも継続できることはできるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活をふまえ入居してより一人ひとりの過ごし方を観察し心身の状況を観察し不安にならぬ様に配慮している。ご本人に合わせた茶碗等も時間を掛けて選定し苦痛の無いように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時にはご本人様・ご家族様・ケアマネの意見を取り込み入居後、ご本人様・ご家族様・管理者・ケアマネ・介護職員の意見を出し合い計画に取り込むようにしている。	本人本位のケアプランを立てるため、最初の面接記録を参考にし、家族やかかりつけ医、担当ケアマネージャーの意見も聞き、職員も参加して立てている。モニタリングも毎月行い、個々のケアプラン目標の進捗状況をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在のご本人様の状況がどの様に実践として結びついているか個人記録に目を通し介護支援経過に記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様より神社仏閣を巡りたいと希望があり入居者全員で行けるようにバスツアーを企画した。可能な限り柔軟に対応するよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催しに参加していることで顔なじみの関係になってこれている。地域の方より声を掛けてくださる機会も増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診があり、往診医とは夜間等の緊急時において携帯電話の通話にて連絡が取れ医師の指示を仰ぐことが可能となっている。	従来のかかりつけ医を希望する利用者には、継続的に受診ができるように支援をしている。事業所の提携医を希望する利用者には、家族の納得と同意を得て、訪問医療を受診している。認知症専門医の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医へ連絡を取り医療処置等の必要時は医師の指示により看護師の訪問にて処置等がなされる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の入退院時にはサマリーの作成を実施し本人の状況・情報を提供しMSWとの連携が取れ退院している。退院時の対応もスムーズに行え早期退院も可能となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居面接・契約時等にご本人様、ご家族様等にホームにて医療行為が必要になった場合今後の生活場所等について各関係者と検討し出来る限り個人の尊重を維持できる環境へ移行していく旨を説明している。	入居契約時に重度化した場合の対応について、家族に事業所としてできることを説明し納得してもらっている。身体状況に変化があった場合、医師の指示を仰ぎ、その都度関係者と話し合いをもって支援経過記録に記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時マニュアルを使用し内部研修を随時行い一連の流れ等学び定期的に利用者様と共に訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月職員、ご利用者様と共に避難訓練を行っている。	消防署による年2回の避難訓練を実施している。消防署のアドバイスを、毎月トイレ、入浴、就寝中などの各生活場面を想定した火災自主訓練を行っている。スプリンクラー、火災報知器、備蓄品は整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的にプライバシーには配慮し、自尊心・気分を気分を害さない言葉掛けを心掛けている。	プライバシー保護に関するマニュアルを作成して、職員研修は実施している。話し方、言葉かけ等、一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、ご本人へ今日着たい服の衣類の選択を行ってまいります。また入浴の順番についても決定してもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩など行きたい場所の選択等も決めてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の持っているハンカチやスカーフで首下のお洒落をご本人が喜ばれる様にしてもらっています。7W/1(回)カットデーにて好きな髪型にもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や一人ひとりの誕生日会等にその方の嗜好食を取り入れたりします。日々のメニュー等も一緒に考えていただきます。	近隣スーパーに利用者と一緒に旬の食材を買い出しに行き、美味しく健康的なヘルシーメニューを考案している。利用者のできることは一緒に行い、食事介助専任と見守りをしながら食事をする職員とに分かれ、和気あいあいとした雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方のADLに合わせた食事形態、栄養状態にもあわせ食材の選択や水分量の確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアを行い口腔内の清潔は確保出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人のADLに合わせた排泄支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して、声掛け、トイレ誘導を促し、自立を支援している。夜間はポータブルを用意して、パット交換、体位交換を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医師へご本人の排便の状況を伝え苦痛等がないよう服薬等にて排便コントロールを行っている。また食事においても食物繊維の多いものの提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番の確認をしている。また浴室にはなじみの音楽が流れリラックスできるように努めている。	お風呂は週3日で、入浴が楽しめる様に音楽を流している。洗い場は広くゆったりとしている。1対1になる入浴中に話しやすい雰囲気作りをして、気軽に話してもらい、リラックスできるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や入浴後等疲れがある時はベッドで休息してもらっている。ベッド周りは安心できるように整備されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により薬表を見ながら説明を受け確認をしている。また薬が変わった際は様子観察を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手指の起用なご利用者様へは縫い物等お願ひしたりと個々得意な物には依頼すると快くやり遂げてくださる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜用品等必要物品があれば買物同行に行きます。またご家族様とご利用者様が馴染みの喫茶店へ行かれ飲食されたり、海遊館にも行かれた。	利用者の体調を考慮しながら外出の支援をしている。、日常的には近くの公園に花見に出かけたり、スーパーや「いぶき・ひびき」などに出向き、各種の催し物を見学することもある。家族の協力で馴染みの所へ出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援ではレジ支払いをご利用者様に任せています。またご家族様がお小遣いを渡されており自己管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	心細くなった時や不安になった時ご家族様へ電話をかけ会話されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア壁に季節感が味わえる様にご利用者様と共に作製した作品を展示したり張り出ししたりアットホームな空間に工夫している。また空調にも気をつけ心地よい環境整備にて心掛けています。	共用の空間は生活感があふれ落ち着いた趣がある。壁面には春夏秋冬の季節をはっきりするために旬のものを飾っている。現在は桜を飾っているが5月の兜などを作成中である。廊下には写真を貼りベンチを配置して寛ぎやすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置によりゆっくり過ごされる方もおり時にはご利用者様同士で一緒に座り会話される場面もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのタンス等の持ち込みをしてもらい自宅と変わらぬ生活ができる様に工夫している。	居室入口には氏名を大きく明示した色紙を貼って、利用者にわかりやすくしている。家族の協力によって、本人の馴染みの物を飾ったり、チェストを配置して自宅と同じような環境で生活できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの個性を生かし「気づき」を見つけ自立支援に向け支援ができるような環境を目指している。		